

海南島 大雲寺（現在は、南山寺と呼ばれている）
厦門の中心街に有る 南普陀のお寺・鴻山寺（こうさんじ）・观音寺（かんおんじ）・厦門大学
福建省泉州市内 开元寺（かいげんじ）・少林寺
海南島

749年鑑真は63歳6月第五次で海南島迄ながされた。

栄叡が再び大明寺の鑑真を訪れ、栄叡・普照は懇願（こんがん）すると、鑑真は5回目の渡日を決意する。船やその他のものの準備は、第二次計画と似ていた。

このたびは、人災は無かったが恐るべき天才に遭遇してしまいました。

大和上は改めて方法を講じた、同行者は、祥彦・神倉・光演・頓悟・道祖・如高・徳清・日悟・栄叡・普照・思託ら僧は皆で14人と、それに、説得して参加させた水手（かこ）（今の水兵）、十八人とその他同行したいと願うもの三十五人であった。

崇福寺（そうふくじ）を出て揚州の新河に行き就航した、大江を出て東に下って常州の狼山の港まで来ると、悪天候に合い島々を、グルグルと廻らされ、翌日になると都合よく舟山の普陀山に着く事が出来た。

ここで風を待つ事一ヵ月で十月になると風向きが良くなったので普陀山を出航したが、舟山の普陀山を11月に日本へ向かい出航したが、目指して出航したが大海へ出て行くにつれて強い風が吹き出し海は大荒れ命からがらの日々が続き、巨大な海蛇や飛魚、海鳥の出現する大洋です。数々の苦難や不思議な出来事を体験して十四日間も東シナ海の海を吹き流されて漂着したのが海南島です。

馮崇債（ふうしゅうさい（官長））は鑑真和上の船が漂着した事を聞くと、兵、四百人余りを迎えによこして州城へ案内させた、鑑真たちは、海南島での一年過ごしました。

馮崇債は高力士の従兄弟です。

また、734年の帰国路の時の判官平群広成（へぐりのひろなり）が指揮を取っていた遣唐船の第三船も日本に向かう時に漂着した島でもある。

馮崇債は、日本と、鑑真は、特に好意を持っていた。大和上一行は、大雲寺にしばらく移住する事になった。大雲寺の仏殿は、こわれたままだったのを、僧たちの衣類や、日本へ持って行うとしていた仏像・仏具・經典などを役立て修築しました。

鑑真は、当地の大雲寺（現在は、南山寺と呼ばれている）に1年滞留し、海南島に数々の医薬の知識を伝えた。土地の豪族や、中央から来た役人の歓迎を受け、物珍しい海南島の風土で英気を養った。そのため、現代でも鑑真を顕彰（けんしょう）する。遺跡（いせき）が残されていますが見つかりませんでした。751年鑑真は揚州に戻るため海南島を離れた。

大雲寺（現在は、南山寺と呼ばれている）

海南島の一部が大きな面積全体が観光化されています、とても広いです。



南山寺入り口



金玉觀世音



般若波羅蜜多心經が観光ルート



通路の壁面に石書しています。全体が観光地として多くの施設化しています。境内内の観光バスです。



三十三観音堂



三十三観音堂前には十八羅漢の石像



南山寺



布袋さん山門には必ず居ります。



山門の左右には四天王だと思いませんか？



山門の左右には四天王だと思いませんか？何故二人ですか？



布袋さんの裏堂にはやはり韋馱天様



南山寺金堂



釈迦三尊象



どの様なお方ですか？



堂内には十八羅漢



鐘楼



鼓楼



南山寺の近くには舍利塔



四面観音像



鑑真達が流れ着いた場所？



東シナ海の海



厦門の中心街に有る 南普陀のお寺



南普陀のお寺の全景



山門には大勢の観光客



立派な山号額



山門の正面には布袋さん



山門内には四天王





その裏には韋馱天



大雄殿は工事中



十八羅漢



魚槌



雲版



山の中腹には金の佛が・・・



金の佛の前には大勢の観光客



中腹には大勢の観光客



門前には大きく広い堀



堀には亀



堀の周りで、ヤムチャを楽しんでいます。



南方の植物、ハイビスカス

厦門大学



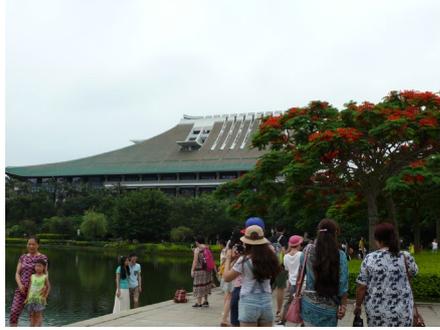
厦門大学の正門



大学の図書館



池の畔には大勢の人、後ろは学生寮



池の畔 体育館



南方の植物、何ですか？

鴻山寺 (こうさんじ) 廈門市内に在り山の中腹に小さな寺がありました。



小さな山門



大雄寶殿の山号額



大雄寶殿内には白玉佛



大雄寶殿の入り口には右に鐘楼左に鼓楼が備えてありました。



鴻山寺の中腹からの廈門市内



山を下りますと鴻山公園が有り、講堂がありました講堂内には三尊の白玉佛ありました。



观音寺 (かんおんじ) は廈門市内で約1時間位山道を歩き山の頂上に大変立派な広い境内で夕暮れ時で観光客は少なかった。



山を上げれば建築中の伽藍と塔



出来たばかりの伽藍



伽藍には千手観音



千手観音には参拝客



幾つかの観音さんが居ます。



どなた様ですか、多くの観光客



伽蘭内には鼓楼



外には大きな鐘楼



お参り用の紙が用意されて売っている。

福建省泉州市内 开元寺 (かいげんじ) 少林寺

泉州の开元寺 (かいげんじ)

开元寺は泉州市の西街に位置し、福建省の中でも最大規模を誇る仏教寺院である。686年(唐朝垂拱2年)に建てられ、かつては蓮花寺、興教寺、竜興寺という名だったが、738年(唐朝開元26年)に現在の开元寺と改名され、全国重要文化財に指定されている。

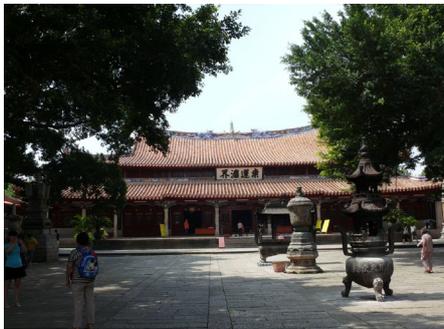
宋・元代には开元寺は分院が120箇所あり、常に一万人ぐらいの僧侶が居た。現存するのは十分の一か二で、面積は約45ヘクタール余り。开元寺の中軸から南に至るまでの建築群は次のように順位している：目隠し用の塀「紫雲塀」、山門の天王殿、大雄宝殿(又の名を百柱殿)、甘露戒壇、藏経閣、東西塔。大雄宝殿は垂拱2年から建設が始まり、紫雲大殿と名付けられた。何度も倒れてはその都度修繕され、現存するのは明朝の重檐歇山式建築である。高さ20m、横の幅は9部屋、奥行きは6部屋で、もともとは石柱が百本あったことから百柱殿と呼ばれた。庭の中には、唐朝から明朝に至るまで歴代建てられた各種小型の石塔が13基あり、そのうち1145年(南宋の紹興15年)に建造された金涂式小塔一対が最も貴重である。大殿の後ろには甘露式壇があり、記載によると、明朝末期から清朝初めの泉州の甘露戒壇と北京の戒壇寺、杭州の昭慶寺は全国でもわずかに現存する三大戒壇である。



开元寺は商店街の真ん中に在り人通りも多い。



立派な石塔です。



境内はとても広い。



大雄殿の天井には萬壽禪寺の立派な山号額、そして釈迦三尊



釈迦三尊の両サイドには十八羅漢



何観音様ですか？



こちらも何観音様ですか？



よくわからない、仁王様



鐘突き堂には小さな鐘楼



菩提樹あまり大きい木ではありません。

泉州少林寺

湖南省の嵩山少林寺は登封少林寺と呼ばれ有名ですが、もう一つは泉州東禪少林寺で南小林寺です。嵩山少林寺と泉州東禪少林寺は中国武術の発展に最も貢献した寺院とされています。泉州少林寺は、唐の初期に、嵩山少林寺の武僧である智空が建立した物。



少林寺入り口の石門



山門



山門正面は布袋さん



山門の左右には四天王

正面には大雄寶殿



右側には立派な鐘樓



左側には鼓樓



天王殿



天王殿内には釈迦座像



天王殿内には釈迦像 天王殿の釈迦座像の左右には十八羅漢



右側にも十八羅漢



広い境内



古い大きな立派な石塔



境内の左右の参道には達磨大師の沢山の絵像が



新築の六角堂



堂内には堂内一杯の新しい釈迦像



遠く彼方には泉州の町、そして丘の上には何故か大きな騎士の像が？